

## ■震災遺構（旧門脇小学校校舎）検討会議（第1回）

## ○「震災遺構（旧門脇小学校校舎）整備計画」の枠組み（案）

## 1 目的

## (1) 旧門脇小学校校舎における東日本大震災の伝承の意義

- ・旧門脇小学校校舎は、震災伝承するための重要な施設です。

- ①津波被害の痕跡に加え、東北地方の多くの被災地で発生した津波火災の痕跡を唯一残した施設
- ②迫りくる火災の中で校内の避難者が日和山へ避難することができた経験を有した施設
- ③（仮称）石巻南浜津波復興祈念公園や日和山と連携した「伝承空間をつなぐ」重要な施設

## (2) 石巻市における旧門脇小学校校舎の整備方針

- ・以上のことから、校舎は、一部又は部分保存することとし、震災遺構として整備を行います。

- ①隣接する（仮称）石巻南浜津波復興祈念公園と日和山との連続性を保った「震災伝承エリア」の主要施設として位置づけます。
- ②被害の状況や防災・減災を後世に伝える施設としての整備を図るとともに、その整備にあたっては、地域住民の感情に十分配慮します。
- ③保存の範囲、内部の利活用や周辺環境の整備について、地域住民との協議を続け、整備内容を決定します。

## 2 整備計画の主要検討事項

## (1) 校舎・周辺環境の整備について

- ①校舎
  - ・一部又は部分保存する。
- ②周辺環境
  - i) 校舎に対する配慮事項（周辺環境整備の条件、周辺環境に求められる役割・機能）
    - ・校舎を隠す、憩いを与える、緑を豊富にする、慰霊碑の場所を検討するなど。
  - ii) 配慮事項を踏まえた周辺環境整備方法
    - ・どこに何を配置するか、ゾーニングをどうするかなど。

## (2) 校舎・周辺環境の利活用について

- ①校舎の利活用
- ②周辺環境の利活用

## (3) 校舎・周辺環境の運営・維持管理について

- ①校舎・周辺環境の運営
- ②校舎・周辺環境の維持管理